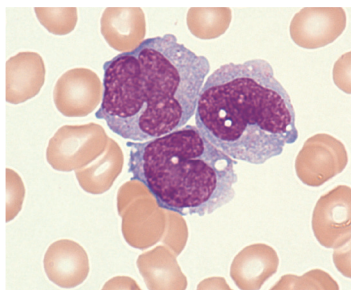
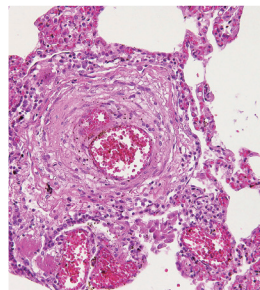
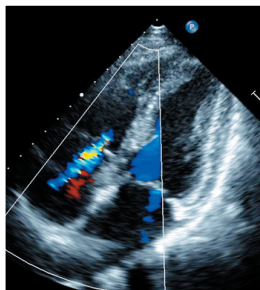




臨床検査技師のこと
何でも聞いてください！

「臨床検査技師」 の仕事



臨床検査は健康へのナビゲーター

私たちは良質な検査を365日、24時間提供しています

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

URL <http://www.jamt.or.jp/>

はじめに

臨床検査技師は 皆さまの健康を見守る 検査の専門家です!

患者さんの身体の状態や病気の原因、重症度や緊急性、治療効果などを評価するために、身体や臓器の「働き」を調べる検査を臨床検査といいます。臨床検査技師とは、厚生労働大臣の免許を受け、病院や診療所などの医療機関で、医師あるいは歯科医師の指示のもとに、各種の臨床検査を行う専門の技術者です。

現代の医療では、病気の予防や早期発見、診断や治療効果判断を行う上で、臨床検査は必要不可欠なものになっています。

そこで、活躍の場がどんどん広がっている臨床検査技師の業務をもっと知ってもらうためにまとめたのがこの冊子です。私たちの日々の仕事を紹介することで、臨床検査への理解が深まり、臨床検査技師という仕事に興味を持っていただけたら幸いです。



Contents



臨床検査技師 職場 Map 4

病院／クリニック／健診(検診)センター／臨床検査センター／医療機器メーカー／
臨床研究コーディネーター(CRC)

臨床検査って何？

・検体検査 6

微生物学的検査／血液学的検査／生化学的検査／一般検査／輸血・造血幹細胞移植関連検査／
免疫血清学的検査／病理・細胞診検査／遺伝子・染色体検査

・生理機能検査 9

超音波検査／心電図(循環器系)検査／脳波検査／呼吸機能検査／聴力検査／
味覚・嗅覚検査／熱画像検査／MRI検査／眼底写真検査

チーム医療における臨床検査技師の役割 12

臨床検査技師は国家資格です！ 13

臨床検査技師に聞きました！

「やりがいとは？」「選んだ理由は？」 14

日本臨床衛生検査技師会はどんな団体なの？ 16



●ご協力いただいた施設

国立大学法人 九州大学病院
独立行政法人国立病院機構 東京病院
地方独立行政法人山梨県立病院機構 山梨県立中央病院
東京女子医科大学東医療センター
旭川医科大学病院
東海大学医学部付属八王子病院
山梨大学医学部附属病院
日本医科大学 多摩永山病院
一般財団法人博慈会 博慈会記念総合病院
医療法人千寿会 道後温泉病院
医療法人 住友別子病院
独立行政法人 地域医療機能推進機構 山梨病院

こんなところで
働いています

臨床検査技師 職場 Map

病院

救急医療や高度な医療を行う病院、地域に根ざした病院があります。ここでは、数名～100名程度の臨床検査技師が勤務し、24時間体制で各種の臨床検査を実施しています。勤務する臨床検査技師はさまざまな緊急検査に対応できる幅広い検査技術や知識とともに、専門分野に関する技術と知識を兼ね備えています。



クリニック

小規模の医療機関では、勤務する臨床検査技師は数名ですが、医療機関の機能に応じた検査全般に関する幅広い知識と技術を身につけ、検体検査や生理機能検査などの各種の臨床検査を担当しています。

健診（検診） センター

健康管理や病気の早期発見に臨床検査は不可欠です。各地の健診（検診）センターで多くの臨床検査技師が国民の健康管理に貢献しています。



臨床検査技師の資格を生かせる職場は、病院をはじめとして、病床を持たないクリニックや健診(検診)センター、分析検査を専門に行う臨床検査センター、医療関係の研究施設など、多岐にわたっています。また、臨床検査に関する知識を活用して、臨床研究コーディネーター

や薬剤メーカーなどの企業、保健所などにも活躍の場があります。

いずれの場合も、精度の高い検査はもちろんのこと、常に迅速で精確な検査結果を提供し、専門的な知識と技術でさまざまな要望に応え、医療の質の向上に貢献しています。

臨床検査センター

地域の健診(検診)施設や開業医からの検体を集結し、分析するのが臨床検査センターです。大量の検体を処理するとともに、病院では対応できない特殊な臨床検査も行います。各種の検査が正確に分析されているか、常にデータを確認するとともに、医師や病院からの検査に関する問い合わせにも対応します。



医療機器メーカー

医療機器メーカーでは、検査に必要な各種医療機器の開発や安全管理、保守点検・試料の品質管理などを行っています。また、全国のどの病院、どの検査センターで検査を行っても常に同じ結果になるように、検査の標準化にも取り組んでいます。

臨床研究コーディネーター(CRC)

CRCは、臨床研究や新薬の治験(効果を確認する臨床試験)に対して、倫理的・科学的に信頼性があることを保障するため、試験の手順や正当性、被験者の同意などの確認などを行います。さらに試験データの記録、症例報告書の作成など、治験の開始から終了までを幅広く支援する専門職です。

CRCの活躍によって、新薬の安全性や有効性が担保され、いまだ治療法がなく苦しんでいる患者さんに、より安全で効果の高い治療法が届けられます。



臨床検査って何？

検体検査と生理機能検査(生体検査)があります

検体検査

人体から採取した血液、尿、喀痰、組織、細胞、体腔液などの検体を用いて調べます。精度を保証し、正しい検査結果を提供するためには、採血・採取*から検査、結果報告までのすべてを臨床検査技師が行っています。さらには検査についての説明・相談も担当業務の一部です。

◆正しい検査は正しい検体採取から*注

臨床検査技師は、これまで診療の補助として患者さんから採血するという検体採取業務を行ってきました。さらに2015年より、鼻腔拭い液、鼻腔吸引液、咽頭拭い液、口腔の粘膜、口腔の病変部位の膿、綿棒を用いて肛門からの糞便、表皮並びに体表を採取する行為(生検のためにこれらを採取する行為を除く)、皮膚並びに体表の病変部位の膿、鱗屑(りんせつ)、痂皮(かひ)、その他の体表の付着物などの検体採取も担当することになりました。この業務拡大については、厚生労働省の指定を受けた日本臨床衛生検査技師会が主催する講習会を修了することが必要です。



安全安心の
講習会修了マーク

微生物学的検査

微生物学的検査は、採取した便、尿、膿、喀痰、咽頭などを培養し、感染症の原因となる微生物を特定するとともに薬に対する感受性(効き具合)を検査します。

技師
からの
一言

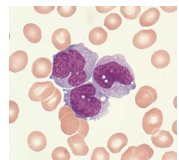
尿や喀痰、膿など患者さんから採取された検体より感染症を起こす菌を探します。目的の菌により寒天培地を使いわけ、菌種や効果のある抗菌薬を調べます。また、冬に大流行するノロウイルスの検査も行っています。

海老原一也(東京女子医科大学東医療センター検査科)



血液学的検査

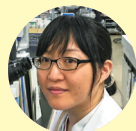
血液中の血球成分(白血球、赤血球、血小板)の数や形態、機能を検査します。貧血の種類や白血病をはじめとするさまざまな血液の病気を見つけることができます。また、血液を凝固させたり、凝固させすぎないようにしている成分を分析したりすることにより、身体の中で起こっている病態を確認することができます。血液をサラサラにするお薬の効果も見ることができます。



技師
からの
一言

血算や白血球分類、凝固機能検査は、血液の病気だけではなく幅広い疾患に関連しています。病気の診断や治療法、治療後の効果判定に役立てる事はもちろん、顕微鏡で細胞をのぞき、病気につながる異常を直接自分の目で発見することができるのも、この分野のやりがいです。

渡辺愉美(旭川医科大学病院臨床検査・輸血部)



生化学的検査

生化学的検査は、血清(血液を凝固させて遠心分離した上澄み)を分析して、血液中の酵素、脂質、糖質、無機質、ホルモンなどを測定し、体調の変化や臓器の異常を把握します。

肝機能検査、腎機能検査、脂質検査、糖尿病検査、甲状腺検査など、多くの分析項目があります。



技師からの一言

生化学検査は臨床検査の中で一番検査項目数が多い分野で、大型自動分析装置が導入されています。正確な検査結果を迅速に主治医へ報告するため、我々は分析装置の精度管理や保守点検を日々行っています。また、異常値が発生した際の的確な対応が臨床検査技師としての腕の見せ所です。



宮澤孝仁 (東海大学医学部付属八王子病院)

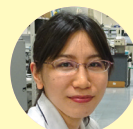
一般検査

一般検査は尿、便、体腔液(胸水、腹水等)などを調べる検査です。尿の検査では腎臓や泌尿器系臓器の状態、膀胱や尿道にできた腫瘍の種類などについても調べることができます。

便の検査は「便潜血検査」と「寄生虫検査」が主なものです。体腔液の検査は、感染症や腫瘍鑑別などの診断に役立ちます。

技師からの一言

尿の鏡検では癌細胞や原虫などが見られることがあり、そういった診断につながる情報を主治医に報告できたときは非常にやりがいを感じます。また髄液検査は緊急性が高く、髄膜炎の診断に直結する重要な検査である為、迅速かつ正確に検査するよう努めています。



今井友子
(山梨県立中央病院)

輸血・造血幹細胞移植関連検査

輸血検査には、輸血を行うために必要な血液型検査や交差適合試験(輸血する血液が患者さんの血液と適合するか否かの検査)、不規則抗体検査(輸血や妊娠によって産生することがあるABO式血液型以外の赤血球抗原に対する抗体を検出する検査)などがあります。

そのほか輸血用血液の保管管理・供給、自己血、末梢血幹細胞移植に係わる業務も行っています。

技師からの一言

輸血は、患者さんの命に直接関わるものなので日々緊張感を持ちながら検査を実施するように心がけています。特に緊急性の高い場合の輸血は、正確かつ迅速さが求められ責任も大きいですが、その分とてもやりがいを感じています。



田中沙恵
(山梨県立中央病院)

検体検査

免疫血清学的検査

免疫血清学的検査は、血液中の抗原や抗体反応を利用して感染など免疫(身体に侵入してくる異物を排除する仕組み)に関係する病気を診断する検査です。肝炎ウイルス、梅毒、関節リウマチ、膠原病などの診断には欠かせない検査です。腫瘍マーカーの検査では、がんの存在や治療効果を見ることができます。

技師からの一言

測定結果が診断に直接つながる項目も多いので、関連項目などに注意を払いながら正確で迅速な検査を心がけています。検査の精度を保つため、分析に使用する試薬・機器を適切に管理するのも大切な仕事の一つです。

山中基子(九州大学病院検査部)



病理・細胞診検査

病理・細胞診検査は、病理組織検査と細胞診検査に分けられます。

病理組織検査は患者さんの体から採取された臓器・組織を用いて顕微鏡観察用のガラス標本を作製します。作製した標本は病理医により観察・診断が行われ、病気の最終診断がなされます。

細胞診検査は、尿や喀痰などに含まれる細胞や、子宮頸部や気管支などからこすり取った細胞、乳腺・甲状腺などの臓器に細い針を刺して採取した細胞から標本を作製し、悪性細胞の有無を調べます。

技師からの一言

病理組織検査は標本を作製し様々な染色を施す職人のような仕事です。細胞診検査では細胞検査士の資格を持つ検査技師が細胞の良悪を判断し、医師と共に診断を行います。これらの検査により最終診断が決定するので、常に技術や疾患について学び、責任感をもって検査を行っています。

我妻美由紀(独立行政法人国立機構 東京病院)



遺伝子・染色体検査

ヒトの体は約6兆個の細胞からできており、細胞の核の中には、2重らせん構造のDNAが折り重なって入っています。DNA中の決まった場所に遺伝子があり、体を構成するタンパク質の合成に関与するなど、ヒトが生きていくために必要な基本的な情報が保存されています。遺伝子・染色体検査によって、生まれつき持っている体質や、生まれたあとに生じたDNAの変化を調べることで病気の診断を行います。また最近では、がんの治療薬などが体質的に効きやすいかなど、治療効果の予測などにも応用されています。

技師からの一言

遺伝子検査は臨床検査の中でも新しい分野です。しかし患者さんや医師に与える影響は大きく、確定診断にも使用されています。得られた検査結果をそのまま報告せずに、本当に正しい結果であるかを日々考え仕事をしています。

荻原真二
(山梨大学医学部附属病院)



生理機能検査（生体検査）

超音波検査、心電図（循環器系）検査、脳波検査、呼吸機能検査、聴力検査、味覚・嗅覚検査、熱画像検査、MRI検査、眼底写真検査などがあり、患者さんの体から直接情報を記録して、体の状態を調べます。

超音波検査

超音波検査は、人の耳に聞こえる音の周波数よりさらに高い音である超音波を用いて体内の組織を画像化し、異常の有無を判断します。この検査では心臓や、肝臓・胆嚢・脾臓・膵臓・腎臓などの腹部臓器、乳腺・甲状腺などの体表臓器、大動脈などの血管系、膀胱・子宮などの骨盤内臓器といったあらゆる臓器の観察に用いられます。また、胎児のスクリーニング検査にも有効的です。

技師からの一言

超音波検査は、検査技師の書く結果が診断や治療方針を決定することも多く、とても責任を感じます。ですがだんだん良くなっていく患者さんを見てると嬉しく、やりがいを感じます。また熊本地震の時には車中泊によるエコノミークラス症候群の検査で検査技師が活躍しており、被災地の皆さんに貢献することができました。

山田裕太郎（山梨県立中央病院）

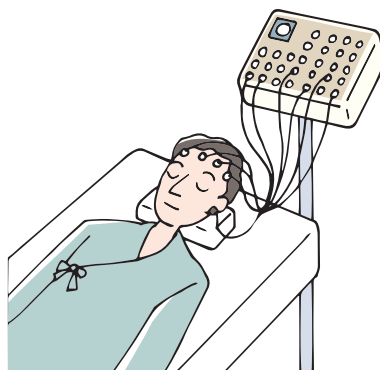


心電図（循環器系）検査

循環器系検査は、心臓や血管など全身の血液循環に関する状態を調べる検査です。心臓の拍動を電気現象として捉える心電図検査では、心臓の脈の乱れや狭心症などの病気がないかを調べることができます。また、心臓の拍動によって発生する脈圧や心音を波形として記録し、心臓や血管系の機能を評価します。動脈硬化の程度も確認でき、メタボリックシンドロームなどの予防にも役立っています。

脳波検査

脳は眠っているときも目覚めているときも、微弱な電気を出し続けています。その電気信号を増幅し記録するのが脳波検査です。また、睡眠時無呼吸症候群の重症度判定や、脳死の判定などに利用されています。てんかん発作が疑われる患者さんには、光や音、深呼吸などいろいろな刺激を与えて脳の反応を調べます。



生理機能検査

呼吸機能検査

呼吸機能検査とは、息切れ、呼吸が苦しいなどの症状があるときに、呼吸器(肺・気管など)の状態を調べるために行われる検査です。呼吸の際に、空気の出し入れが上手くいっているのか？ 肺で酸素の取り込みが上手くいっているのか？ などが調べられます。

肺の病気の診断・重症度を調べる場合や、治療効果の成果を見るときにも行われます。

技師
からの
一言

国内の慢性閉塞性肺疾患(COPD)は530万人と推定され、世界的にも患者数の増加が予想されています。呼吸機能検査は患者さまの努力が検査結果を左右しますので、疾患の早期発見のため技師も一緒になって努力致します。また近年では肺年齢が提唱され検査結果も分かりやすくなっています。

加藤政利

(日本医科大学 多摩永山病院
中央検査室)



聴力検査

聴力検査は耳の聞こえを調べる検査です。高い音から低い音までのいろいろな周波数の音を聞いて、その音がどのくらいの高さまで聞こえているかを調べます。ヘッドフォンや振動子で音を伝えます。また、言葉をきちんと捉えられるかを調べる聴力検査もあります。



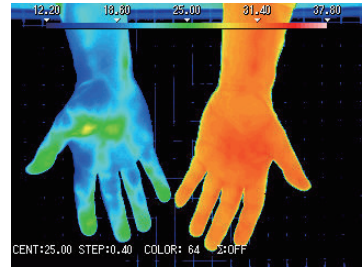
味覚・嗅覚検査

味覚検査は、電気味覚計を使い味覚を測定する電気味覚検査と、味がついている紙を舌の上に置いて感じた味を回答してもらう濾紙ディスク法検査があります。

嗅覚検査は、5種類の基準臭のにおいを嗅ぎ分けられるかを調べる基準臭覚検査と、ニンニク臭を感じるようになる注射液を静脈に注射して、ニンニク臭を感じ始めてから消えるまでの時間を測定するアリナミンテストがあります。

熱画像検査

熱画像(サーモグラフィ)検査は、皮膚の表面温度を測定し、末梢循環不全、麻痺による体温の左右差の有無、皮膚疾患や血管腫等の周辺部との温度差などを調べます。体表面の温度差は色の違いで表示されます。



MRI検査

MRI (Magnetic Resonance Imaging = 磁気共鳴画像診断装置)検査は、磁気の利用して体の臓器や血管を撮影し、病巣を調べます。脳、脊椎、四肢、子宮、卵巣、前立腺などの病変の発見・診断に有効です。



技師からの一言

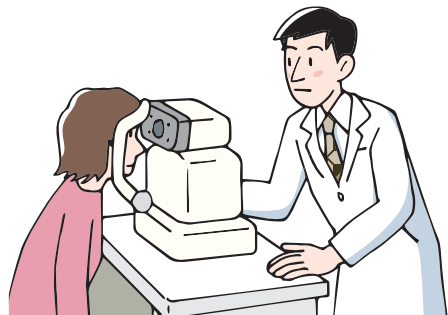
MRI検査は診療放射線技師のみが行っている。とされている方も多いと思いますが臨床検査技師業務の1つです。検査前の患者さんの不安をなるべく取り除くため丁寧な説明をいつも心がけています。

藤本愛理
(医療法人千寿会 道後温泉病院)



眼底写真検査

眼底写真検査は、瞳孔の奥にある眼底を眼底カメラや眼底鏡を用いて観察し、網膜剥離、眼底出血、緑内障などの目の病気を調べます。また、眼底の血管は体の中で唯一直接血管を観察できる部位のため、動脈硬化、脳腫瘍などの病気が推察でき、生活習慣病の検査としても有効です。



チーム医療における 臨床検査技師の役割

◆チーム医療とは

現在の医療は、医師を中心に看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士などの医療職がそれぞれの高い専門性を生かし、患者さんの状況に合わせた最善の医療を提供することを目的としたチームを構成しています。臨床検査技師もそのチームの一員として、臨床検査の専門家として診療に積極的に参加しています。

▶ 栄養サポートチーム

検査データから患者さんの栄養状態や全身状態を評価し、サポートの必要性や効果の判定を行い、合併症を予防し生活の質の向上をめざします。

▶ がん医療に関するチーム医療

血液成分の分析や超音波検査でがんの早期発見や治療効果を評価。病理・細胞診検査で専門医と協力しながら、がん細胞の有無や種類、遺伝子などについて調べます。

▶ 呼吸ケアサポートチーム

肺や気管、気管支の働きの状態を調べ、診断や治療効果の判断を支援します。

▶ 感染症対策チーム

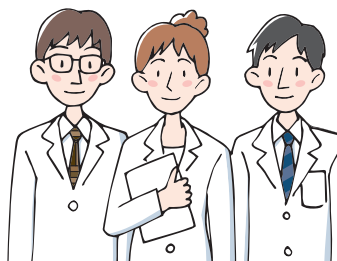
院内感染予防の各種情報を発信。病気の原因菌を特定し、薬剤効果などの情報提供を行います。

▶ 糖尿病チーム

血糖やヘモグロビンA1cの値を検査し、糖尿病の診断や治療効果の判断、合併症の発症予防などに関する情報を提供し、また、自己血糖測定器(SMBG)の管理や使用方法の説明などを通じて、患者さんの血糖自己管理を支援します。

▶ 救急医療チーム

24時間365日、検体採取から各種検査の結果を正確かつ迅速に提供し、診断を支援します。



臨床検査技師

▶ リハビリテーションチーム

脳波や筋電図の検査で脳神経系の働きの状態を調べ、診断や予後、治療効果の判断を支援します。

▶ 医療機器安全管理チーム

検査に必要な各種医療機器の安全管理や保守点検・試料の品質管理を行い、全国どの病院で検査を行っても、同じ結果になるよう、検査の標準化に取り組んでいます。

▶ 褥瘡管理チーム

検査データから患者さんの褥瘡発生リスクを評価し、褥瘡の発生を予防します。褥瘡がある場合は、原因菌を特定し、薬剤の効果などについて情報提供を行います。

▶ 治験チーム

治験の科学的な信頼性及び治験に協力していただいている患者さんの安全性を確保するために、検査データを管理しています。

▶ 医療安全管理チーム

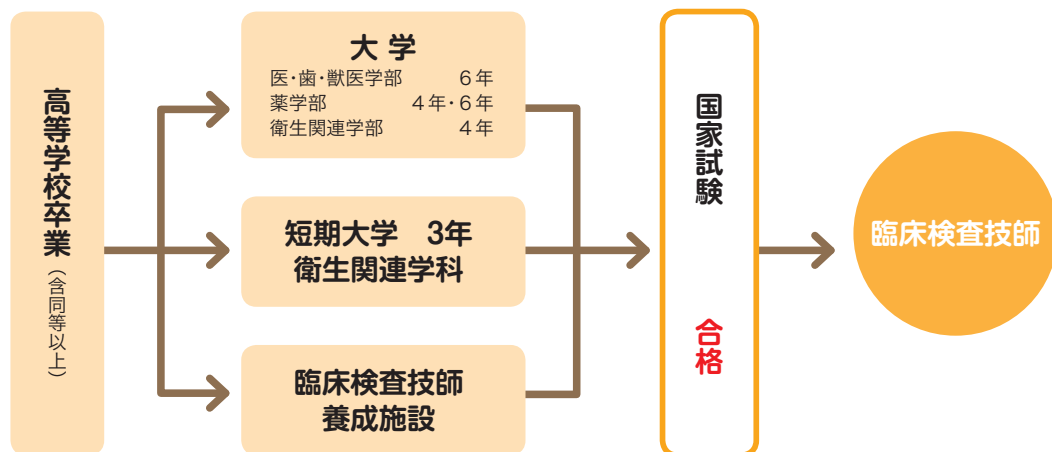
臨床検査に係る医療事故やインシデントに関する情報の収集を行い、事故の起こりにくいシステムの構築、対策を実施しています。

◆これからの臨床検査技師の役割

検査室での実際の検査に加え、外来や病室の患者さんから採血や各種検査に用いられる検体を採取したり、患者さんに検査についての説明を行ったりするなど、より患者さんに近い場所での仕事が増えています。臨床検査の専門家として患者さんや医療スタッフに、いろいろな情報をわかりやすく提供する必要があります。

臨床検査技師は国家資格です！

臨床検査技師になるためには、毎年一度実施される国家試験に合格しなければなりません。また、臨床検査技師国家試験の受験資格を得るためには、臨床検査技師養成のカリキュラムを修了する必要があります。



国家資格取得後のキャリアアップ

日本臨床衛生検査技師会では、さらに質の高い臨床検査技師を医療現場に提供するために、生涯教育の一環として各種検査の認定技師制度を定め、認定技師の受験資格並びに更新の審査を実施し、会員のキャリアアップに努めています。その他、関連学会による各種認定制度が運営されています。



臨床検査技師に
聞きました!

「やりがいは？」



曾我部晃文さん

医療法人 住友別子病院

病気の早期発見、 治療に欠かせない仕事です!

臨床検査技師として勤務して8年です。私が臨床検査技師という職業を選んだ理由は、高校生当時、白衣を着て顕微鏡や超音波装置を使って検査をする事が、かっこよく思えたからです。(笑)私は現在、生化学検査と腹部超音波検査業務に携わっています。どちらの業務も時間に追われ順調に進まない事が多い反面、やりがいもあります。生化学検査では、問い合わせや発生するトラブルに適切に対処できた時や測定装置及び試薬の検討など、経費削減や作業効率を向上するための検討を行う事にもやりがいを感じています。また、腹部超音波検査では、検査結果が病変の発見につながり早期治療が行えた時などは臨床検査技師を選んで良かったと感じる時です。

私のやりがい

臨床検査技師になって4年目を迎えました。現在、血液・輸血・一般検査に携わっており、栄養サポートチームにも参加しています。他職種の方々と関わる機会も多く、ディスカッションをする中で検査技師としての意見やアドバイスが活かされた時はとてもやりがいを感じます。そのためにはスキルを身につけることが必要であり、研修会や学会等で知識を吸収することは欠かせません。専門職ゆえに奥が深く難しい事も多いですが、だからこそやりがいがある仕事だと思います。



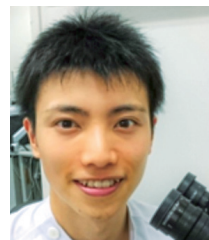
前川みな美さん

独立行政法人地域医療機能推進機構
山梨病院

「選んだ理由は？」

自分の姿勢次第でどこまでも追求していける仕事

臨床検査技師になり、早4年目を迎えました。入職時より病理検査・細胞診検査に携わり、日々業務に励んでおります。仕事を覚えてからも、まだまだ知らないことが多く、勉強会や学会に参加する度、奥が深い仕事であると実感させられます。医療は日々進化しているので、就職してからも認定資格等の取得など、どんどんステップアップして知識や技術を追求し、身につけたものを患者さんへ貢献できるところにやりがいや面白さを感じます。



古市将大さん

東海大学医学部付属八王子病院



小木曾菜摘さん

日本医科大学 多摩永山病院

医療現場のエキスパートとして

この春に着任してまだ3ヶ月の新人臨床検査技師です。私は検体検査を担当し、採血業務も行っています。採血は痛みを伴うため、患者さまの多くはとても緊張しています。採血時に緊張すると血圧が下がったり、心拍数が少なくなったりして気分が悪くなることがあるので、いかにリラックスして採血を受けて頂くか、検査技師のコミュニケーション能力が試されます。採血後の患者さまからの「ありがとう」という言葉はなにより嬉しく、また明日もがんばろうという気持ちになります。臨床検査技師の業務は多岐にわたり、医療現場のスペシャリストとして、とてもやりがいを感じられる職業だと思います。

生理機能検査に進んで

平成29年から生理機能検査室に入職しました。生理機能検査は自分の知識や技術が直接検査のクオリティに直結し、自分の技術・判断一つで検査結果が左右されてしまうこともあります。何より患者さん相手なので、ただ結果を求めるのではなく相手を思いやりながら検査を進める必要があり、検査の正確性や速度に加え患者さんへの気遣いが非常に大事だと痛切に感じています。ただ、そうして検査をすることは、より患者さんの辛さや訴えに寄り添い、患者さんが病院を信頼して治療を進めていける一助になれるのではと考えています。患者さんの現状を適切に検査結果として報告し、患者さんの為になる働きをすることが、検査技師としてのやりがいだと思っています。



小田萌李さん

一般財団法人博慈会 博慈会記念総合病院
生理機能検査室



一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 はどんな団体なの？

◆ 設立

昭和27年7月27日	日本衛生検査技術者会として設立
昭和37年12月21日	社団法人日本衛生検査技師会として法人設立認可
平成24年4月1日	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会として認可取得

◆ 団体の特徴

臨床検査技師等に関する法律(昭和33年法律第78)に基づき臨床検査技師の国家資格を有する者が正会員として構成する職域団体です。

会の目的は、臨床検査技師及び衛生検査技師の制度・身分の確立及び学術・技術の向上並びに福利厚生・相互団結の充実に図り、検査技師の職能意識を高めることにより、ひいては国民の健康増進及び公衆衛生の向上寄与することを目的としています。関連団体として47都道府県に臨床検査技師会があります。

◆ 主な活動状況

1. 全国学会・支部学会(毎年開催)
2. 出版(会誌「医学検査」、会報JAMT、JAMT マガジン等の発行)
3. 生涯教育研修事業(一般教育課程・専門教育課程)
4. 検査研究部門の研修会の実施
5. 臨床検査精度管理調査事業の推進(検査データの全国サーベイ)
6. 臨床検査データ標準化事業の推進(検査方法・技術の統一)
7. 関連団体・学会交流(医療情報交換、協力)
8. 海外交流(IFBLS・AAMLSに加盟)
9. 検査及び検査技師の実態調査
10. 公益事業として全国検査と健康展の実施
11. 臨床検査技師認定機構、日臨技認定センターでの認定技師の運営

◆ 会員数

61,000名(平成29年8月現在)



日本臨床衛生検査技師会の活動

◎ 全国「検査と健康展」

毎年11月、多くの国民に臨床検査を広く知っていただくために47都道府県で開催しています。

◎ 生涯教育制度

臨床検査技師を対象とし、検査技術、検査知識のレベルアップのために全国各地で研修会・学会を開催しています。

◎ 「ピペット」発行

臨床検査技師の仕事を広報し、広く国民の皆様へ「検査」のことを知っていただく冊子を季刊で発行しています(全国医療機関に配布)。